

プレスリリース

「それやレんの?」: フェムボット現象

キュレーター

Elena Knox (エレナ・ノックス)

オープニングパーティー

7月9日(土)17:00~19:00

期間:2022年7月10日(日)~8月5日(金)

営業時間:火~日 14:30~23:00

休日:月曜

会場

人間レストラン

東京都新宿区歌舞伎町1-13-11甲斐ビル 4F

※展覧会はネット上でも開催されます。

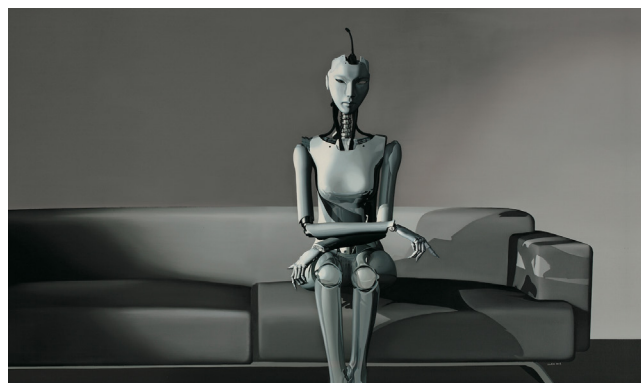
参加アーティスト

アリソン・デ・フレン

菅実花

エレナ・ノックス

リン・シン



リン・シン「シスターフッドIII」2009、キャンバスに油彩

〈「それやレんの?」:フェムボット現象〉。この展覧会タイトルは、新開発の女性型ロボット(フェムボット)が主流メディアに紹介されるたびに、ネット上に拡散するコメントから取られています。「おお、すごい、でもそれやレんの?」と、匿名の人たちは質問します。この反応にこたえるべく、当展覧会では四人のアジアで活動し、キャリアを持つ国際的な女性アーティストを一堂に集めます。彼女たちは一貫して女性型ロボットを、その創作活動の主題にしています。

当展覧会はユーモアと脱構築を用い、見慣れた形象を理論的に再検証することで、フェムボットという現代的な現象について最新の魅力ある批評を提示します。

ロボットはセクシーであるべきか?テクノロジーの未来を決定づけるのは何か、そしてこの現状を再設計するのは一体誰なのか?これらの問題に適切に取り組むためには、女性らしさの具現化を既成事実として客体化し、提示している人々が、女性自身がどう考えているのかを理解する必要があると考えます。

この度、ビデオ、インスタレーション、写真、ドローイング、ペインティングそしてソーシャルドキュメンタリーとディベートといったメディアの領域を横断して活動する、女性としてのアイデンティティを持つアーティストに強く焦点を当てた展覧会を開催します。「女性がフェムボットについてのアートをつくる」ことをテーマにした展覧会はおそらく初めてのことになるでしょう。

展覧会は東京の鼓動する心臓部である歌舞伎町の、有名なロボットレストランの向かいにあるバー/レストランで開催されます。私たちはここに集い、パーティーを繰り広げ、将来における機械の性別化や性欲化について考える機会を皆様提案します。

〈「それやレんの?」: フェムボット現象〉展はapexartの「国際オープンコール」によって選出されました。詳細、作品画像および関連イベントについてのお問い合わせは elizabeth.larison@apexart.orgにメールをお送りいただくか、 <https://apexart.org/knox.php>よりご確認ください。

エレナ・ノックスは東京を拠点にメディア・パフォーマンスアーティストとして活動している。近年の作品には日本製の最先端ロボットが使われ、科学技術が発達した未来におけるアイデンティティや信念の役を試演するものやジェンダー、人格、非現実的な(又は浮世離れた)存在感、むき出しにされた社会状況に関する新たな展望を探求する物がある。近年の展覧会には、横浜トリエンナーレ、バンコクアートビエンナーレ、北京メディアアートビエンナーレ、森美術館の「未来と芸術」、アジアカルチャーセンターの「Lux Aeterna」がある。

apexartは下記の団体よりサポートを受けています。アンディ・ウォーホル美術財団、ブル財団、ブルームバーグ・フィランソロピーズ、グリニッジ・コレクション、ウィリアム・タルボット・ヒルマン財団、アファーマイション芸術文化基金、ミルトン・アンド・サリー・アヴェリー芸術文化財団、フィフス・フロア財団、ニューヨーク市文化局およびアンドリュー・M・クオモ知事、ニューヨーク州議会の支援を受けたニューヨーク州芸術評議会。

#それやレんの

291 church street, new york, ny 10013
t +1 212 431 5270 www.apexart.org